主催：第一三共株式会社

【配信会場】
京都教育文化センター

606-8397　京都府京都市左京区聖護院川原町4-13

チャンネル1乳がん・がん疼痛	**202号室**
チャンネル2胃癌・肺癌	**203号室**
チャンネル3固形がん・血液がん	**205号室**
チャンネル4高血圧・心血管疾患	**301号室**
チャンネル5頭痛・疼痛	**302号室**

参加申し込み方法

＜現地参加の方へ＞

氏名・診療科・参加チャンネルを下記担当者宛にメール下さい
第一三共　林高一郎（koichiro.hayashi@daiichisankyo.com）

二次元コードからも申し込み可能です

当日参加も可能ですが、お弁当個数把握のため
6月16日（火）12時までに事前登録頂きますと幸いです

＜WEB視聴希望の方へ＞

弊社会員サイト「第一三共 Medical Community」
の登録が必要です。
会員登録はこちら　**https://www.medicalcommunity.jp/**

会場では、お弁当を準備しております

Daiichi-Sankyo Next Generation Forum

	チャンネル1	チャンネル2	チャンネル3	チャンネル4	チャンネル5
	乳がん ・ がん疼痛	胃がん ・ 肺がん	固形がん ・ 血液がん	高血圧 ・ 心血管疾患	頭痛 ・ 疼痛
会場	202号室	203号室	205号室	301号室	302号室
講演1 18:00 ~ 18:40	ADC導入で変わる乳癌診療 ～合併症管理・院内合意形成・AI活用の具体策～ 演者 岐阜県総合医療センター 乳腺外科 間瀬 純一 先生	バイオマーカーに基づく胃がん薬物療法の発展とContinuum of Care ～日々の診療から、臨床研究の実践まで～ 演者 がん研究会有明病院 消化器化学療法科 副医長 下嵜 啓太郎 先生	臓器横断的ながん診療を志す腫瘍内科医のキャリア形成と臓器横断的な新たな治療ターゲット 演者 愛知県がんセンター ゲノム医療センター 梅垣 翔 先生	高血圧症診療における「押さえるべき数字」 ～診断・治療のトピックス～ 演者 千葉大学医学部附属病院 循環器内科 診療講師 齋藤 佑一 先生	頭痛診療から学ぶ一般化できる外来での時短Tips UpToDate 演者 京都府立医科大学大学院医学研究科 脳神経内科学 講師 石井 亮太郎 先生
休憩 10分					
講演2 18:50 ~ 19:30	オピオイドを“処方する”から“設計する”へ ～緩和医療専門医が疼痛マネジメントで考えていること～ 演者 神戸大学医学部附属病院 緩和支持治療科 特命教授 釆野 優 先生	複雑化する肺癌診療を支えるAI活用戦略 ～HER2遺伝子変異陽性肺癌の症例から学ぶ次世代の文献検索～ 演者 順天堂大学大学院医学研究科 呼吸器内科学 虎澤 匡洋 先生	目指せT細胞リンパ腫診療の頂点 ～最善の治療を患者さんへ届ける～ 演者 名古屋大学医学部附属病院 血液内科 講師 島田 和之 先生	次世代の医師に必要な視点 ～PMDAで学ぶスキルと医師主導治験KABUKI Trialが拓く未来～ 演者 九州大学病院 ARO次世代医療センター 教授 細川 和也 先生	最新のAI支援画像技術を利用した脊椎低侵襲手術の実践 ～安全かつ確実に手術を行うために～ 演者 北海道大学病院 整形外科・スポーツ医学診療センター 助教 筌場 大介 先生

Daiichi-Sankyo
Next Generation Forum

抄録と略歴

講演1
18:00~18:40

ADC導入で変わる乳癌診療
～合併症管理・院内合意形成・AI活用の具体策～

岐阜県総合医療センター　乳腺外科　**間瀬 純一** 先生

乳癌診療はADCの登場により、治療選択だけでなく診療体制にも大きな変化が生じています。エンハーツやダトロウェイの導入に際し、合併症管理や運用設計、院内合意形成をどのように進めるべきかは、現場で直面する重要課題です。臨床経験に加え、経営およびMBAの視点から、戦略・プロセス・財務・データ活用の観点で実践的対応策を整理します。さらに、AIを日常診療や研究にどのように組み込み、診療の質向上に結びつけるかについても具体例を交えて考察します。

ご略歴

2016年　岐阜大学医学部医学科卒業
2016年　恵山赤十字病院初期研修医
2018年　恵山赤十字病院外科
2019年　岐阜県総合医療センター外科
2020年　岐阜大学医学部附属病院
2023年　岐阜県総合医療センター乳腺外科
2025年　マサチューセッツ大学MBA卒業

講演2
18:50~19:30

オピオイドを“処方する”から“設計する”へ
～緩和医療専門医が疼痛マネジメントで考えていること～

神戸大学医学部附属病院　緩和支持治療科　特命教授　**釆野 優** 先生

研修医や若手の先生から、がん性疼痛でよく相談を受けるのは、「どのように考えて、オピオイドを選択するか」です。オピオイドは、もちろん疼痛のNRSを下げるために処方するわけですが、緩和医療専門医の頭の中は“処方”というより“設計”に近いかもしれません。つまり、疼痛の機序、併存症、腎・肝機能、予後、生活背景、さらには今後予想される症状の変化までを見通しながら、“いま何を選ぶか”を設計します。本講演では、モルヒネ・ナルサス・オキシコドン・フェンタニルなどの選択やローテーション、増量のタイミング、レスキューの考え方を通じて、緩和医療専門医が疼痛マネジメントで何を考えているのか、その思考プロセスを可視化します。そして、明日からの処方が一段深くなる視点を共有したいと思います。

ご略歴

2012年　大阪市立大学医学部 卒業
2012年　清和会丸太町病院 初期研修医
2014年　京都大学医学部附属病院 がん薬物治療科 医員
2017年　Royal Surrey County Hospital/
St Lukes' Cancer Centre (UK) Research
2017年　聖隷三方原病院 ホスピス科 医師
2022年　京都大学医学部附属病院 腫瘍内科 医員
2024年　京都大学医学部附属病院 緩和医療科 特定講師
2026年　神戸大学大学院医学研究科 内科系講座 先端緩和医療学分野 特命教授
神戸大学医学部附属病院 緩和支持治療科 部門長

講演1
18:00~18:40

バイオマーカーに基づく胃がん薬物療法の発展と Continuum of Care
～日々の診療から,臨床研究の実践まで～

がん研究会有明病院　消化器化学療法科　副医長　**下嵜 啓太郎** 先生

近年、胃癌薬物療法はめまぐるしい発展を遂げています。HER2のみならず,CLDN18,MMR,PD-L1などのバイオマーカーに基づいて最適な薬物療法を決定することがガイドラインに掲げられています。一方で企業治験等では埋められないエビデンスのギャップが存在し、日々の診療において頭を悩ます機会も増えています。本セッションでは、胃癌薬物療法に関する最新知見や臨床試験の背景、日々の診療にどのようにエビデンスを落とし込められるのかについて私見を交えながら議論したいと考えています。また,胃癌の臨床研究を実施した立場から、数少ない経験を共有したいと思います。本セッションが胃癌薬物療法の進展に寄与する臨床研究の立案を検討している若手の先生方にとって一助となれば大変幸いです。

ご略歴

2014年3月　慶應義塾大学医学部医学科　卒業
2014年4月　東京慈恵会医科大学市川総合病院　初期臨床研修医
2016年4月　慶應義塾大学医学部　内科学教室（消化器）入局
2017年4月　伊勢原協同病院　内科専修医
2018年4月　慶應義塾大学病院　内科（出向）
2019年4月　慶應義塾大学医学部医学科大学院　医療科学専攻　入学
2020年10月　がん研有明病院　消化器化学療法科　出向（～2022/03）
2022年4月　慶應義塾大学病院　内科（出向）
2023年3月　慶應義塾大学医学部医学科大学院　医療科学専攻　卒業
2023年4月　川崎市立川崎病院　消化器内科　副医長
2024年4月　がん研有明病院　消化器化学療法科　副医長

講演2
18:50~19:30

複雑化する肺癌診療を支えるAI活用戦略
～*HER2*遺伝子変異陽性肺癌の症例から学ぶ次世代の文献検索～

順天堂大学大学院医学研究科　呼吸器内科学　**虎澤 匡洋** 先生

肺癌領域の個別化医療は極めて高度化しており、膨大なエビデンスから患者さんの最適な治療を導くには、最新の知見を効率的かつ的確に収集するスキルが不可欠です。本講演では、HER2変異陽性非小細胞肺癌に対するエンハーツの実際の症例をベースに臨床疑問を設定し、ChatGPT等の生成AIを用いた実践的な文献検索・情報整理の手法を解説します。AIを活用して診療・研究の質と速度を向上させるための「ポストAI時代の業務効率化」と、AI時代の新たな医師の働き方について、若手の先生方と共に考える機会とできれば幸いです。

ご略歴

2015年3月　順天堂大学医学部医学科　卒業
2021年4月　順天堂大学大学院医学研究科　入学
2025年3月　順天堂大学大学院医学研究科　修了
2015年4月～2018年3月　船橋市立医療病院（初期研修～専攻医）
2018年4月～2019年3月　順天堂大学医学部附属順天堂医院　呼吸器内科
2019年4月～2021年3月　順天堂大学医学部附属浦安病院　呼吸器内科
2021年4月～2024年6月　国立がん研究センター中央病院　呼吸器内科
国立がん研究センター研究所　ゲノム生物学分野
2024年7月～現在　順天堂大学医学部附属順天堂医院　呼吸器内科

講演1
18:00~18:40

臓器横断的ながん診療を志す腫瘍内科医のキャリア形成と 臓器横断的な新たな治療ターゲット

愛知県がんセンター　ゲノム医療センター　**梅垣　翔** 先生

がん治療は発生臓器別に治療薬の開発が進められてきました。しかし、ゲノム解析技術の進歩により、がんは発生臓器に関わらない共通した特徴（遺伝子異常）を持つことも分かってきました。今や、がん治療は遺伝子異常別の治療薬を臓器横断的に開発する新たなフェーズに入っていると考えられます。日々変化する時代の中で、どのようにキャリアプランを立てるのか？腫瘍内科の醍醐味は何なのか？基礎研究や臨床研究にどのように関わっていくのか？腫瘍内科医の一つのキャリアをご紹介できればと思います。また、臓器横断的な治療ターゲットとして新たにHER2が加わる見込みです。最新の治療薬や治療開発の話題もお話しする予定です。お気軽にご視聴下さい。

ご略歴

2015年3月　東北大学医学部卒業
2015年4月　八戸市立市民病院 初期研修
2017年4月　東北大学大学院医学系研究科　臨床腫瘍学分野
大学院生/ 東北大学病院　腫瘍内科
2021年9月　大崎市民病院　腫瘍内科
2022年4月　東北大学病院 腫瘍内科
2023年4月　宮城県立がんセンター 腫瘍内科
2024年4月　東北大学病院 腫瘍内科
2024年10月　愛知県がんセンター ゲノム医療センター

講演2 目指せT細胞リンパ腫診療の頂点

～最善の治療を患者さんへ届ける～

18:50~19:30

名古屋大学医学部附属病院　血液内科　講師　**島田 和之** 先生

末梢性T細胞リンパ腫は、B細胞リンパ腫と比較して稀な病態であり、日常的に遭遇する病態ではありません。初回の標準治療も完全には未確立で治療成績が不十分であることから、更なる治療成績の向上が求められています。しかも、診断困難例が多く、ホジキンリンパ腫やB細胞リンパ腫との鑑別に苦慮する事例にしばしば遭遇します。正確な診断のためには、多種の免疫組織化学的検討、遺伝子学的検討が必要になりますが、そのためには施設の病理医との円滑な連携が必要不可欠です。本講演では、最近経験した診断困難な事例を紹介しながら、末梢性T細胞リンパ腫に対する最善の治療について考察します。

ご略歴

2001年3月　名古屋大学医学部医学科卒業
2001年5月～2002年3月　愛知県厚生農業協同組合連合会昭和病院研修医
2002年4月～2006年3月　愛知県厚生農業協同組合連合会昭和病院
血液・化学療法科医員
2006年4月～2007年3月　大垣市民病院血液内科医員
2007年4月～2007年10月　名古屋大学医学部附属病院血液内科医員
2009年3月　名古屋大学大学院医学系研究科博士課程修了
2009年4月～2009年4月　名古屋大学大学院医学系研究科　血液・腫瘍内科学　客員研究者
2009年5月～2009年9月　サウサンプトン大学医学部客員研究員
（名古屋大学　グローバルCOEプログラム若手研究者の研修のための海外派遣）
2009年10月～2010年3月　名古屋大学医学部附属病院輸血部臨床研修医員
2010年4月～2012年3月　サウサンプトン大学医学部客員研究員
（第一三共生命科学研究所振興財団　海外留学奨学研究助成）
2012年3月～2016年3月　名古屋大学高等研究院／大学院医学系研究科　特任講師
2026年4月　～　現在　名古屋大学医学部附属病院血液内科　講師

講演1 高血圧症診療における「押さえるべき数字」

～診断・治療のトピックス～

18:00~18:40

千葉大学医学部附属病院　循環器内科　診療講師　**齋藤 佑一** 先生

高血圧症は心血管疾患における最大のリスク因子であり、日本では4000万人以上、全世界では約15億人が罹患している。専門分野を問わず、日常診療で高血圧症患者を診ない日はないのが現状である。
高血圧診療をシンプルに理解し、患者の治療アドヒアランスを高めるためには、「押さえるべき数字」を知ることが重要である。
本講演では、明日からの診療に役立つ重要な数値を整理しつつ、高血圧に対する実践的な治療戦略と腎デナベーションなどの最新トピックスを交えて解説する。

ご略歴

2009年　千葉大学医学部卒業
2009年　東京女子医科大学八千代医療センター　初期研修医
2011年　多摩南部地域病院　循環器内科
2012年　千葉県救急医療センター　循環器内科
2013年　千葉大学医学部附属病院　循環器内科
2018年　Yale大学（米国）
2020年　千葉大学医学部附属病院　循環器内科　特任助教
2022年　千葉大学医学部附属病院　循環器内科　診療講師

講演2 次世代の医師に必要な視点

～PMDAで学ぶスキルと医師主導治験KABUKI Trialが拓く未来～

18:50~19:30

九州大学病院　ARO次世代医療センター　教授　**細川 和也** 先生

本講演では、医師のキャリア形成において臨床と研究をどのように接続するかをテーマに、演者の経験を基にお話しします。医薬品医療機器総合機構（PMDA）での審査業務を通じて培った、規制科学的視点、臨床試験デザインなどエビデンス創出に必要な考え方を紹介するとともに、それらの経験が医師主導治験の実行にどのように活かされたかを解説します。後半では、慢性血栓塞栓性肺高血圧症（CTEPH）に対するリクシアナの適応拡大を目指した医師主導治験「KABUKI Trial」を例に、アカデミア発臨床研究が社会実装へとつながるプロセスを示します。次世代の医師が、臨床の枠を超えて医療の未来を切り拓くために必要な視点と実践的ヒントを共有したいと思います。

ご略歴

2003年　九州大学医学部卒業
2005年　国立療養所病院センターレジデント
2008年　九州大学大学院医学研究院大学院生
2012年　済生会二日市病院医員
2014年　九州大学病院医員
2015年　医薬品医療機器総合機構医療機器審査部審査専門員（特任職員）
2017年　九州大学病院循環器内科　医員
2018年　同助教、ミシガン大学アナーバー校　客員教授
2024年　九州大学先端医療オープンイノベーションセンター　准教授
2026年　九州大学病院　ARO次世代医療センター　教授

講演1 頭痛診療から学ぶ、一般化できる外来での時短Tips UpToDate

18:00~18:40

京都府立医科大学大学院医学研究科　脳神経内科学　講師　**石井 亮太郎** 先生

外来頭痛診療は、限られた時間で二次性頭痛を除外し、診断と治療方針の合意までを短時間で進める必要がある。本講演では、頭痛診療の中でも特に片頭痛と薬剤使用過多頭痛（MOH）に焦点を当て、治療の組み立て方を整理したうえで、一般外来にも応用できる時短テクニックを共有する。
前半では治療戦略として、MHD（月間頭痛日数）4日以上を目安とした片頭痛予防治療の導入判断を概説し、あわせてMOH治療の基本と、OTC（市販薬）関連MOHを含む現状の課題を整理する。
後半では、ナッジ理論を応用した外来時短テクニックについて、理論と実践をオムニバス形式で紹介し、受講者が自身の診療スタイルに合う工夫を持ち帰れるように提示する。

ご略歴

2005年3月 京都府立医科大学卒業
2005年4月 京都府立医科大学附属病院卒後臨床研修センター/前期専攻医
2008年4月 京都第二赤十字病院　脳神経内科　医員
2011年4月 京都府立医科大学　神経内科学　大学院
2017年4月 京都府立医科大学付属北部医療センター　救急科 助教
2019年9月 Visiting scientist, Department of Neurology, Mayo Clinic Arizona
2021年9月 京都府本巣支病院 脳神経内科 医員
2022年4月 京都府立医科大学大学院医学研究科 脳神経内科学 学内講師
2026年4月 京都府立医科大学大学院医学研究科 脳神経内科学 講師

講演2 最新のAI支援画像技術を利用した脊椎低侵襲手術の実践

～安全かつ確実に手術を行うために～

18:50~19:30

北海道大学病院　整形外科・スポーツ医学診療センター　助教　**筌場 大介** 先生

脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニアなどの脊椎疾患は全年齢層において高頻度にみられる整形外科の代表疾患です。近年、外科系領域では手術手技の低侵襲化が急速に発展しており、整形外科、特に脊椎領域でもトレンドになっています。これらの脊椎疾患に対しても内視鏡や顕微鏡を用いた低侵襲手術の有用性が注目されている一方で、脊椎手術においては神経損傷等の重大合併症を生じるリスクを伴うため、手術を安全かつ効果的に行うための工夫が必要となります。本講演では、外来でよくみかける脊椎疾患の基本を解説しつつ、AI技術を用いた3D神経画像の作成技術および脊椎低侵襲治療における詳細な画像診断、術前プランニングとそれらの術中操作への活用法をご紹介します。

ご略歴

2011年　北海道大学医学部医学科卒業
2011年　市立函館病院　初期研修医
2013年　北海道大学病院　整形外科
2014年　帯広厚生病院　整形外科
2015年　釧路労災病院　整形外科
2016年　北海道大学病院　整形外科
2017年　北海道大学大学院医学院医学専攻博士課程
2021年　函館中央病院　整形外科／北海道社会保険センター　整形外科
2023年　北海道大学病院　整形外科　助教
2024年　米国Rush University Medical Center留学
2025年　北海道大学病院　整形外科　助教
2026年　北海道大学病院　整形外科・スポーツ医学診療センター　助教